

# 地域文化を めぐる今日的 な課題

## 地域の伝統芸能

伝統芸能は、古くから町衆の生活の中に代々受け継がれてきた芸能で、後継者は、地域住民であるため日々の生活と地域芸能を切り離して考えることは出来ません。ゆえに、伝統芸能と生活の両面から考察することが重要となります。

現在、吉祥院六斎保存活動は、京都市南区吉祥院菅原町の吉祥院六斎念仏は、近世から伝わる念仏踊りで、吉祥院天満宮の年2回の大祭で奉納しています。天満宮周辺に念仏踊りの六斎組があり、競い合って奉納されました。しかし、菅原組（南条六斎）は、奉納から排除されてきましたが、近代に入って菅原組が周辺の農民から教わって参加するように準備し、紆余曲折を経て、参加出来るようになりました。

戦後、吉祥院地域の他の組が途絶えてしまい現在では、菅原組のみが奉納しています。

六斎念仏踊りは、江戸時代以降、現在の京都市内及び周辺地域において、盛んに行われている伝統芸能の一つでその演目には太鼓曲の他に歌舞伎、能、獅子舞なども含まれます。

起源は、10世紀頃に始まった踊り念仏が起源であるとされています。江戸時代にも現在に伝わるような形の六斎念仏が成立されており、農民によって行われる地域の芸能として六斎念仏が定着されていました。

戦前から戦後にかけて、京都六斎コンクールが開催され、地藏盆や花見会場での公演が盛んに行われていました。



能



能楽



歌舞伎



舞

1983年（昭和58年）に京都六斎念仏保存団体連合会として、国の重要無形民俗文化財に指定されますが、後継者不足のために廃絶してしまう保存会も多く、2001年（平成13年）時点では、京都市内で公演を行っていたのは12団体になってしまいました。

吉祥院六斎念仏が行われ始めたのは、明治以降で、1955年（昭和30年）に開催された「京都六斎コンクール」において、吉祥院六斎保存会（菅原組）が連続3度の優勝を果たすなど、その後も、地方公演やTV出演を行うなどの活動が続けられていました。

吉祥院六斎保存会も衰退しはじめましたが、1995年（平成7年）に「吉祥院子ども六斎会」を発足し、担い手育成に取り組み、毎年、吉祥院天満宮の大祭において、保存会と一緒に六斎奉納を行っていますが、六斎保存活動における新たな担い手の育成の課題が重要となっています。